令和6年度第2回小田原市みどりの審議会 議事録

1 日 時 令和6年11月19日(火) 午後1時30分から午後3時

2 場 所 小田原市役所 3階 301会議室

3 内容

議題

- (1) 最近の緑の基本計画に関する動向について
- (2) 緑の基本計画改定までのスケジュールについて
- (3) その他

上府中公園への新たなスポーツ施設の可能性について

4 出席委員 榑野会長、土屋副会長、小山委員、外崎委員、太田委員

5 事務局 杉山建設部長、下澤建設部副部長、松本みどり公園課長、片野副課長、石黒計画緑政係長、塩崎主査、穂谷野スポーツ課長、菊池係長

6 議事の概要

議題

- (1) 最近の緑の基本計画に関する動向について

事務局から資料1により説明

質疑応答

委員 : 説明にあった、今年5月29日に公布された新しい都市緑地法における国が定める基本方針については、パブリックコメントを求めている最中であると聞いている。今まで都市緑地法に規定されている計画というのは市町村が定める緑の基本計画だけであったが、今回の改正で、国が基本方針を定め、都道府県が広域的な緑地の計画を策定することができるという制度が変わった。小田原市の緑の基本計画にどのような影響があるのか。神奈川県は去年新しい計画を策定したばかりであると聞いている。そのため、今できているものを踏まえて検討していけば良く、また、国の方は緑の基本方針の考え方を踏まえることが必要であると思われる。ポイントは、環境というものにシフトした緑の基本計画を作っていくことが謳われている。個別目標として、「カーボンニュートラル都市」とあるが、みどりを増やしてCO₂の吸収源を増やす、みどりの役割を認識するということ。また、ネイチャーポジティブという考え方が近年普及してきており、生物多様性条約COP(締約国会議: Conference of the Partiesの略)の中で、30by30(サーティ・バイ・サーティ)という言葉が時々出てくるが、陸と海の3割を生物多様性に富む空間にしていくことを国際的に目指している。これは、箱根など国立公園の自然

を守るだけではなく、やはり都市部においても積極的に生物多様性に富む空間を造っていくことを国全体で推進する観点が「ネイチャーポジティブを実現した都市」に含まれている。それと、「Well-being が実感できる水と緑豊かな都市」とあるが一言でいうとグリーンインフラという観点である。特に防災的なものや生物多様性も含めてグリーンインフラの視点を緑の基本計画の中に入れていかなければならない。次のポイントとして、「推進の視点」に民間の力も入れてみどりの拡大を図るとあり、寄附や投資などが考えられる。最近では都市開発の中でみどりを増やすことが流行ってきている。説明した資料にはなかったが、制度改革の中で国が自ら民間が確保した緑地を認証する制度が新しく出来ている。民間の取り組みを国がしっかりと評価し、応援することが制度化されたのである。このようなことを念頭に入れて、緑の基本計画を改定する必要があるのではないか。この辺りも含めご意見ご感想を伺いたい。

委員 : 市民の方に分かりやすい言葉で具体的に伝えることが市町村の役目ではないか思っている。読む方にわかりやすくしないと間違った解釈をしてしまう恐れもある。幸いに椰野会長がいらっしゃるので解釈等はお聞きすればよい。誰にもわかりやすい表現で、小田原市緑の基本計画の中に入れるようにしていけば良いのではないか。最終的には国の方針もあるが都道府県の広域緑地計画に沿って策定する必要がある。あくまで緑の基本計画は方針と方向性に沿い、市民の声や地域の個性などを反映させて市町村が策定することが重要である。なお、いきなり今回の資料を見て意見を述べるのは難しいと思うので後日事務局へお聞きしてもよろしいかと思う。

委員 : 分かりやすさ、市民の皆さんが分かりやすくなるような工夫は必要と以前から意見があるのでその視点は踏襲していかなければならない。土屋副会長のおっしゃるとおりである。それでは外崎委員どうぞ。

委員 : 基本計画の概要を見て理想論で素晴らしいとは思いますが、生物多様性の確保というのはどのようなことであるか、イメージが湧かない。小田原メダカを守るのとかなのか、程度しかイメージできない。資料を見てもどれもどのように導入していけば良いのか分からない。教えていただきたい。

委員 : 生物多様性の確保というのはどういう意味であるか。多様性を確保するということが漠然とした内容である、とずっと言われている問題である。私たちが役所で説明する際は様々な生き物が住める空間というのは我々人間にと

っても住みやすい空間であると表現している。或いは様々な生き物が住んでいることによって様々な社会が成り立っている。例えば生態系、生物ピラミッドが機能している事が人間生活においても非常に良いことである。また、一言でいうと自然の恵みは生物多様性が確保されている中で生まれてくる。様々な生物がいるお陰で我々の生活が成り立っているということを国際的に守っていく、人間だけでなく様々な生き物のことも考えて社会を作っていくという視点である。実際は環境部局の方がもっと言わなければならないところではあるが、緑の基本計画を作っていく時にはその辺を分かりやすく説明していかなければならない。ただそれでも分かりにくいとは思う。

委員 : 基本方針の概要の言っていることは分かるが、クマが人を襲う、イノシシやシカなどによる農作物に対する害獣被害があり、都市に危険が迫っている中で、共存や多様性の確保は理想論であって現実問題いかなものかといつも疑問に思う。

委員 : 人間側から物事を見るか、生物側から物事を見るかによる。少し極論的な言い方になるがウサギやリスは可愛くて好き、ヘビやムカデは嫌い。これは生物多様性ではない。受け入れられるか否か。ただそこと共存していく姿勢が大事なのだと思う。好きになれということではなく、必要があって生きているということ。お互いに複雑に絡み合いながら生きているわけで、先程の生態系のピラミッドでいうと人間が一番下の消費者であり、生産者に成り得ない。トップは生産者である植物になる。我々のものの見方を少し変えていかなければ生物多様性という言葉と合致する可能性は低いのではないかと思う。先程メダカの話がされていたが、小田原以外にも鎌倉メダカや藤沢メダカはいる。違いは尾ひれの数など。では、そのメダカは大事かということ、その個体として生き残ってきたのであるからとても大事である。鎌倉水系のものを藤沢水系に入れたらメダカは交雑してしまう。そのためそれを守りましょうということは、その個体が生息できる環境を守りましょうということである。メダカ1つとっても生物多様性に通ずるものがあると解釈されると良いかもしれない。

委員 : 言っていることは分かるがやはり最近小田原でもクマが出たため、恐怖心の方が強い。

委員 : それは生態系が崩れていることが原因である。

委員 : 多様に生息できる環境を小田原のような都市部でもきちんと保全していくと

いうこと。クマなどによる害獣被害に対する駆除となると指定が変わってしまう可能性はあるため、計画論上は生物多様性の環境を維持するための環境をきちんと保全していくことを人間側として行っていく。20年後を目標に計画することが緑の基本計画となる。

委員 : 外崎委員がおっしゃる視点はいつも問題となる視点ではあるため留意していく。

委員 : 資料にしてはとても見やすくまとまっている印象を受けた。土屋副会長が先程、難しいことや抽象的な言葉を市民の方に分かりやすい言葉で具体的に伝えることが市町村の役目とおっしゃられたことが素晴らしい視点だと思った。自身の子育てで難しいことや正しいことを分かりやすく伝えることほど大変なことはないと痛感した。当たり前のことを伝えることは根気がいる。市町村としては、時間の掛かる領域であることが、故に大人に説明してもすぐには根付かない。市や県は子供にどう伝えるかということを真剣に考えれば、小さく植えたものが大きく育つ。一例としてではあるが、ここに植えたものが将来こういう木になると、時系列を追っていくことができる。計画を立てたならその履歴は必ず追っていくという大きな決まりを作る。そのような志を決まりごとにするのが大事ではないか。加えて、今回の資料(表)においてはアニメまでとは言わないが、絵や色彩などを用いて資料を作成すると読み手は分かりやすい。また、自治体として働きかけることができる自治会単位には既に市としてみどりを大事にしていくこと、自然環境の保全についての説明は行ってきていたかと思うが、国の方針などを共有することも大事である。結果として地域の保全と人々の健康に繋がる。生物多様性とはみどりを守ること、地域を守ること、コミュニティづくり、健康など未来の小田原市のことであることを伝える。小さいことから大きいこと、短いことから長いこと、狭いことから広域なことなど時系列や空間の広がりを入り込めるような資料や計画を作成することが必要ではないか。企業が努力していることを市の資料に加えても良いと思う。

委員 : 鎌倉の一例を紹介しても良いか。

委員 : 了承。

委員 : 先程教育の話があったが、子どもについては学校の副読本としてみどりや歴史に関する中学校理科学習「鎌倉の自然」を発行している。社会人に対して

は、私が在籍していた当時のみどり課で今から 40 年前に「緑の学校」という制度を作られた。公募して、年間数十名の市民の方が利用される。そこでそれぞれの専門の先生を招いて緑に関する基礎的な講座や自然観察・野鳥観察などを通じ、自然の仕組みを理解し、緑の大切さを学んでいただく。私が受け持っていたのは、鎌倉の古都保存法という鶴岡八幡宮を中心に連なる山が開発から守られた経過があり、そういったみどりの話を 20 年ほどしていた。そういったことを地道に伝える。緑の学校を受講したら山林の管理、花壇の管理、土づくりなど好きなボランティア活動を大人の部と子供の部へ参加できるようにセットにして設けている。緑のレンジャーは今では NPO 法人になって独立して活動を行っているが、成熟していくとこういった具現化例もある。ただし、作った当初は人が集まらない、何をすれば良いか分からない、と自分自身右往左往し、自ら勉強していかなければいけないという記憶がある。教育の普及啓発、みどりの普及啓発の一環として行政もしくは NPO 法人が講座を開いて社会人教育含め行くと、1つの方向性が出てくる。

委員 : 決まり事をこうすべきだ、地球が泣いているなどの大メッセージではなく、ささやかな事柄から浸透すれば良いと思った。

委員 : もう 1つの事例として、街路樹の愛護会というものがある。公園愛護会はいくつもあるが街路樹愛護会は少ない。街路樹は行政が管理しているため、自宅前にあっても住民は手伝ってくれることが少ない。そこで街路樹愛護会に花を配り根本に植栽していただくことにした。草刈りをただお願いしても刈ってもらえないが花を植えれば水をやり、ついでに草も刈ってもらえると考えた。結果として成功し、木も育った。行政が行政だけで行くと絶対にできない部分が出てくるので、小さいことから地域住民の皆さんと一緒にアイデアを出し、かつお金をあまり使わずに具体化をしていく。それが積もっていくと生物多様性という大きなものに帰着していくことになると思う。

委員 : 先程事務局から紹介いただいた、国の緑の基本方針の推進の視点の中で、多様な主体の連携と謳われている。これは今のお話のとおり、みどりに関しては国や自治体が主体で行うだけではなく、企業や NPO、市民の皆さんも一緒に巻き込んで行っていないと、真の意味でのみどり豊かなまちにはならない。やはりこれからの緑の基本計画の中では、分かりやすさや市民や企業等と連携していく視点が非常に重要ではないかと思われる。続きまして小山委員にご意見ご感想を伺う前に、説明で落としてしまった部分を述べさせてい

ただ、今回の国の基本方針の中で緑地の質を高めるとあるが、樹木の問題、ナラ枯れや竹林化など、みどりも放置していたら良くなるというものでもない。管理していかなければならないことも謳っており、その点の制度改正も行っている。この点も踏まえてご意見ご感想をいただきたい。

委員 : 今おっしゃったように樹木の更新については、樹木の倒木など災害になる可能性も高いので、確実に実施していった方が良い。緑の基本計画を作成するにあたっては、市民の方々の声は反映するのか。

委員 : 当然市の計画はパブリックコメントや地元への方向性を示して意見を伺うような形の場合は今後設ける予定である。先程ご意見のあった分かりやすさなどは、今回緑の基本計画を改正するにあたり会長、副会長のおっしゃった国の政策を盛り込みながら、分かりやすく市民の皆さんに案を示して一定の意見を伺いながら進めていくのではないかと思われる。個別目標にある、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラはなかなか受け込みにくい言葉である。私の考えは、カーボンニュートラルは木を増やしてCO2を吸収して酸素に変え空気が綺麗になる。ネイチャーポジティブは生物多様性として昔あった自然が開発によって失われ、今になって生態系にズレが生じているため、現状維持または改善していくことで自然を積極的に戻していく、という捉え方をしている。そしてグリーンインフラについては、要は道路公園下水道と同じインフラであるため、みどりに関しても同様に当て嵌めていき、先程説明のあった防災においても田んぼ、川、公園も含めて緑の基本計画を考えている。災害があった際、田んぼは貯留施設となるなどの視点を今回の見直しにあたっては盛り込んでいく。これを踏まえてパブリックコメントも行うし、必要に応じて市民に問いかけるような場を設けたいと検討している。アンケート調査も行う必要が出てくるとと思われる。

委員 : 審議会の審議内容は公開しているのか。

事務局 : 資料も含め公開している。

委員 : これも経過報告の1つ具体例である。

委員 : 前回、小田原市緑の基本計画を改定する際もアンケート調査は行っているという認識で間違いはないか。

事務局 : そのとおりである。

委員 : やはり市民の意見というのは、計画を策定する際は非常に重要であるため

積極的に取り組んでいただきたい。

(2) 緑の基本計画改定までのスケジュールについて

事務局から資料2により説明

質疑応答

- 委員 : 本件につきまして、議題(1)を含めてご意見ご質問を伺う。
- 委員 : 緑の基本計画スケジュール資料中にある、5ページ1 基本計画改定までのスケジュール ○令和8年度 10月～11月に都市計画審議会への報告(11月)と記載あるが、通常の流れなのか今回に限ってのことなのか伺いたい。
- 事務局 : 基本的に基本計画改定のスケジュールにおいては、前回平成28年に改定を行った時と同様の流れである。都市計画審議会は年3回しか行われぬ。ちなみに前回は2月の都市計画審議会へ諮った。今回は令和9年2月頃にあると聞いているが、都市計画審議会で意見が出た場合、緑の基本計画へ意見を取り込むことができない。そのため、2月の前が令和8年10月又は11月に開催予定の都市計画審議会へ諮ることを予定している。また、パブリックコメントにおいても前回は1月に行っているが、こちらも同様に令和9年1月に行うと意見を取り込むことができなくなるため、令和8年10月か11月を予定している。今回はこれらの部分が前回の改定時のスケジュールと異なる。したがって素案の作成時期も早まっている。他に当たっては前回と同様である。
- 委員 : 予算は12月に決まると思うのだが、これも踏まえて10月、11月に前倒してまとめているのか。今まで以上に経費にシビアに向き合っているという印象を持った。
- 事務局 : 緑の基本計画は1年ごとの計画ではなく、10年20年の長期計画である。令和9年2月に改定したとして、勿論そのあとすぐ始まる事業もあるとは思いますが、中長期計画の事業が含まれているため、予算的な問題で前倒しているわけではない。
- 委員 : 先程事務局から説明あったが、例えばパブリックコメントをギリギリに行ってしまうと上手く計画に反映することができない。大変良い意見が出てどうしても計画に取り入れたいとしても、議会への報告や製本印刷の関係上時間的に取り込めないといった事象が発生してしまうため、スケジュールの見直しを当時提言した記憶はある。事務局においては、その提言を適

切に対応していただいたと私は理解している。

委員 : 私は公募市民という立場で参加しているため、表向きであったとしても、市民の声を反映することが出来るこのスケジュール感は大変ありがたい。

委員 : 他にご意見はあるか。

(意見なし)

(3) その他 上府中公園への新たなスポーツ施設の可能性について
事務局から資料3により説明

質疑応答

委員 : 公園のスポーツ施設管理は私も経験がある。公園だが、教育委員会で管理を行っている都市は多く、鎌倉市も同様であった。したがってスポーツ施設ではあるが、公園課は整備せずに教育委員会が行うなど一元化されていかなかった。では、近年はどうかというと、管理の一元化がされてきている。大規模公園の再整備については、小田原市の緑の基本計画 95 ページに安全快適に利用できる公園空間の提供に向け、と記載がある。また、4-4 という項目では市民の安心安全の向上に寄与する公園の防災機能等の強化を図るとの記載もある。要するに小田原市が大規模公園の再整備を行う上での方向性を表しており、計画運用上の記載をしている。そのため、整備の委員会をスポーツ課で立ち上げてしっかりと計画を作っているのも、それに対する異議はない。1点だけ気になった部分がある。今回の整備を行うからというわけではなく、安心安全といった中でみどり公園課として上府中公園全体に対する防災機能を今後どうするのか。計画運用上、今後のことを含めていくとは思いますが、他の公園についてもどうするのか。大規模公園の整備方向、マネジメントの方向性を出す必要がある。公園は防災機能を担うため、例えば仮設住宅地の建設用地として検討する、トイレの機能強化を図るなど。私も鎌倉市に在籍していた時に防災公園を造ったことがある。1.5haほどの公園で20穴の防災用トイレを園路沿いに設置できるようテントを防災倉庫に備えてある。こちらは勿論水洗ではなく、くみ取り式である。阪神淡路大震災の時一番困ったのは水と言われているが、実はトイレであったと記録に残っている。このような事例を踏まえて、安心安全における防災機能についてスポーツ課含めて図っていただけると

有難い。これに対する答弁は意見であり不要である。

委員 : 他に意見はあるか。

委員 : パークゴルフとスケートボードを新設することのだが、パークゴルフは年代的に少々上の方であり、比較的多くの方が行うスポーツである。競技は勿論コミュニティづくりなど娯楽の意味合いが強い認識である。一方、スケートボードは比較的若い方がスポーツ競技として行い、近年オリンピック競技にも採用され、日本人も結果を残している。小田原市民の中にもオリンピックを目指している人はいるかもしれない。もし隠れスケートボーダーやオリンピックを目標にされている方などの数字があれば教えていただきたい。もう1つは、資料3 上府中公園への新たなスポーツ施設の可能性についての1ページ、パークゴルフ場について内に説明のある、子供向け遊具などのエリアはコースから外します。とあり、除外した部分は従来の管理で、スポーツに関わる場所が増える一方、公園としての場所が縮小される懸念がある。認識違いであれば指摘願いたい。

事務局 : 上府中公園を想定して説明をさせていただく前提であるが、おっしゃられる懸念点は極力避けなければならないと認識している。子供の遊具などをエリアから外すというのは移設ではなく、手を付けないということである。パークゴルフを例にすると周囲の緑地帯、植栽がある場所や池の東側に手を加え、そこをパークゴルフのエリアとしたいという思いである。また、スケートボードの人口については、他のスポーツと異なりなかなか人数把握が難しいところではある。1回でも乗ったことのある人をカウントするのか、それともプロとしてスポーツしている人だけをカウントするのか。

委員 : 私事ではあるが、40年ほど前に七里ヶ浜でスケートボードとローラースケート場を設計しようと思い計画したことがある。まだ、今のように流行っていなかったため、地域住民の理解を得られず、計画自体だめになったことがある。こういった公園の整備は熱いうちに実施しないと機会を逃してしまう。時代によって変化する柔軟な思考を持っていただけると良いと思う。

委員 : 他に意見等はあるか。私からコメントをさせていただく。1点は先程土屋副会長がおっしゃった、緑の基本計画との整合がとても気になるところである。緑の基本計画はもともとスポーツ・レクリエーションなどの機能配置を含めて策定するものである。今回、新たなスポーツ施設の可能性につ

いてご検討されているので、今は改定前のため、現時点で書かれている内容との整合性を図ること、或いは小田原市全体でスポーツ・レクリエーションをどのように考えていくのか、後追いになってしまうが整理しなければならない。もう1点は、この公園は昨年指定管理者を指定したばかりであるため、選定されたときには勿論今回の検討事項を含めていなかったこと。そのため、今の指定管理者および担当課との十分な調整を図っていただかないと指定管理者に迷惑をかけることになる可能性があることが非常に気になる。既に検討事項箇所については選考時にどのような管理をしていくか、金銭面も含めて説明をしていた。急な管理施設の内容変更は迷惑が掛かる。指定管理者としても受け入れられるものなのかが大事である。私の方からは以上である。

委員 : 指定管理を受けている側の人間として、指定管理者はあくまで対等な立場での契約を結んでいる。行政側が契約内容を一部変更するからという姿勢は良くない。単純な施設管理を委託しているわけではない。指定管理者制度というのは同等の立場で話を持っていく必要がある。この話は契約時には無かった内容だけれど、数量の変更はない、ここは補填できているなど、説明をしっかりとしただけでのご理解を得ていく努力は必要である。また、全国的に指定管理内容について公園の一括委託のようになっているため、小田原市はないと思うが対等な立場で理解いただければ。

委員 : 切実な思いである。他にご意見はないか。

事務局 : 先程土屋副会長の方から答弁は良いとの話があったが、上府中公園においては、自衛隊の活動拠点やヘリポート、仮設住宅予定地など大きな役割を担っているが、検討しているパークゴルフ整備場所は既存の緑地帯などの場所を使用し平地が減るわけではない。いずれにしても地域防災計画に上府中公園は位置づいているため、みどり公園課は市防災計画担当課と調整を図っていきたいと思っている。また、指定管理者についても同様にスケジュール感も含めて話をし、スポーツ課と共に調整を図り必要な対策を行っていきたい旨、理解いただきたい。

委員 : 十分に理解している。

委員 : 無料で提供するのか。

事務局 : パークゴルフについては恐らく有料である。スケートボード会場は本来整備を考えると有料であるが、直接利用者に話を聞くと有料だと使わないと

の声があったため、要検討である。

- 委員 : 周辺住民に対する騒音などを注意していくことになると思う。
- 委員 : スケートボードは見た感じ事故や怪我が多そう。有料であるなら、保険方面を検討した方が良くはないか。
- 委員 : 指定管理者とよく協議して進める必要があり、指定管理者に対する負担は大きい。
- 事務局 : 11月9日(土)に指定管理者が独自で開催しているイベントがあり、その中で、エリアや時間を決めて障害物等を設置しスケートボードを楽しむ企画を行っていた。様子を実際に見ることができて、確かに事故などには注意していく必要はある。
- 委員 : 利用者は子どもが多いと思うがこれも教育だと思う。何でも禁止にしているのは良くない。
- 委員 : 意見が出尽くしたようなので、上府中公園への新たなスポーツ施設の可能性についての質疑は終了する。その他事務局から連絡事項はあるか。
- 事務局 : 特にない。
- 委員 : 次の審議会の日程はいつか。
- 事務局 : 2月7日(金)の午後に予定している。

以上